2017年10月1日　教会建設記念礼拝　礼拝説教（要旨）
聖書　ローマの信徒への手紙1章16～17節
説教「福音を恥としない」　　日本キリスト教会鶴見教会 牧師 高松牧人

「わたしは福音を恥としない。福音は、ユダヤ人をはじめ、ギリシア人にも、信じる者すべてに救いをもたらす神の力だからです。福音には、神の義が啓示されていますが、それは、初めから終わりまで信仰を通して実現されるのです。『正しい者は信仰によって生きる』と書いてあるとおりです。」

この言葉はローマの信徒への手紙の主題ないし結論だと言われます。ローマ書の中味はこの言葉の展開であると言うことができます。けれども、パウロはここで要約を掲げますと大上段に構えているではありません。実は冒頭には「なぜなら」という言葉（ギリシア語でガルという小さな接続詞）があり、続く二つの文章の冒頭にもついているのです。つまり、パウロの気持ちとしては、どうしてもローマにいって福音を宣べ伝えたいという、すぐ前に述べたこととしっかりつながっているのです。パウロは自分の気持ちを綴るうちに、ローマ書の主題といってもよいような文章を書いてしまったのです。

パウロは自分がローマでの福音宣教の使命を感じるのは、「わたしは福音を恥としない」からだと言います。この「恥じない」という言葉遣いは当時信仰を告白するという文脈でよく用いられました（マルコ8：38、Ⅱテモテ1：8）。恥じないとは固く信じるということです。そこにパウロの確信と誇りがあります。

しかし、それでもパウロが「恥としない」という言い方をしていることは注目しておいてよいのではないでしょうか。なぜなら、この表現は、信仰に生きるところには戦いがあり、私たちの中に恥じる思いが生じやすいという現実をよく表わしているからです。私たちも身に覚えのあることではないでしょうか。

なぜ恥じるのでしょうか。それは福音そのものが、この世の見方考え方からするとつまずきに満ち、愚かに見えるからです。パウロは「十字架の言葉は、滅んでいく者にとっては愚かなものですが、わたしたち救われる者には神の力です」（Ⅰコリント1：18）と言い、「ユダヤ人はしるしを求め、ギリシア人は知恵を探しますが、わたしたちは十字架につけられたキリストを宣べ伝えています」（同1：22～23）と言います。奇跡や力ある業を見せ、知恵を語るなら、世間は注目するし納得するのです。パウロも、そういう誘惑に駆られたことがあったに違いありません。それだけに彼は「私たちは十字架につけられたキリストを宣べ伝える」と言い切るのです。

これから世界の中心ローマに行って伝道するとき、どんな反応が人々から返ってくるか、パウロはこれまでの経験から十分に予想できたことでしょう。だからこそ彼は、十字架につけられたキリストをのみ宣べ伝えるということに賭けていこうとしているのです。そのことをあなたがたも理解してほしいし、私と同じ姿勢で戦ってほしいと願っているのです。

なぜなら、このイエス・キリストの福音にこそ、すべての人を救うことができる神の力が現されているからです。神はどこにいるのか、神は何をしているのかと、私たちは

すぐ神の無力をなじり嘆くのですが、神はその力を、御子イエスをこの世に送り、御子において私たちを罪と死から贖い出すことにおいて、最もはっきりと表わされたのです。御子を死人の中から復活させたのはこの神の力なのです。ここでパウロが見つめているのは、自分の意志の強さとか信仰深さではなく、福音そのものの力、そこに秘められた神の力です。異邦人を救いに導き、神に敵対していたパウロをキリストの僕として召し出したのもこの神の力でした。

さらに、どうして福音がすべての人に救いをもたらす神の力なのかというと、福音には神の義が啓示されているからだというのです。今年は宗教改革 500 年の記念の年ですが、マルティン・ルターが、苦悩の果てに聖書の中に再発見したという真理こそ、「福音には、神の義が啓示されている」ということでした。熱心な修道僧であったルターは、神の救いにあずかっている喜びと平安をなかなか確信することができませんでした。がんばればがんばるほど、神の前に自分の罪深い姿が映し出されるだけでした。彼にとって、神の義は福音どころか、裁きの宣告であり、自分はとうてい救われないという思いにさせるものでした。けれども、彼はついに聖書の言葉から、神の義とは、神がその正しさによって人を裁くものさしではなく、神がご自身の義によって、罪ある人間を義としてくださるのだという恵みを聴き取るのです。神の義が自分のような罪人をも生かす神の恵みの御業であることを知らされるのです。

神の義は、イエス・キリストの十字架と復活において実現し、与えられました。神の独り子が人となってこの世に来られ、私たちの罪を全て背負って十字架について死んでくださり、私たちの罪を帳消しにしてくださいました。そして、復活して私たちを神の子とし、キリストの新しい命に生きる者としてくださいました。

福音において啓示された神の義を受けとめるために必要なことはただ一つ、信仰です。私たちは自分の賢さや知恵によってではなく、善行の積み重ねでもなく、最初から最後まで、徹底的に、イエス・キリストにおいて現された神の真実な御業を信じ、それに応えていくことによって神の御前に義とされ、神のくださるいのちに生かされるのです。

この信仰とは神と私たちとの関係です。神が与えてくださったものです。私たちの内なる信念とか覚悟とか活力ではありません。だから大事なことは、ただひたすら神を仰ぎ見、キリストにおいて現された神の真実から目を離さないことです。

私たちは、イエス・キリストの福音とそこに秘められた神の力を、恥じることなく宣べ伝えていきたいと思います。それが教会に集められた私たちの使命です。